滋賀・勧学院遺跡

1　所在地　滋賀県近江八幡市馬渕町

2　調査期間　一九八五年（昭60）一〇月～一二月

3　発掘機関　㈶滋賀県文化財保護協会

4　調査担当者　仲川　靖

5　遺跡の種類　集落跡及び官衙跡

6　遺跡の年代　弥生時代後期、奈良時代中期、平安時代後期～鎌倉時代初頭

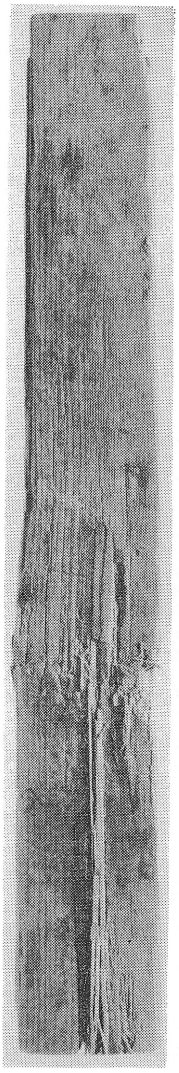
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

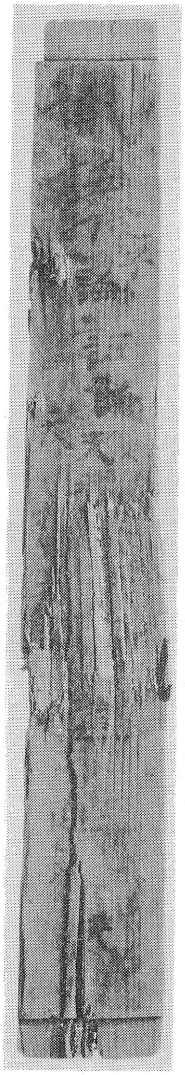
勧学院遺跡は、近江八幡市の西南部に位置し、日野川東岸の標高約九七mの水田地帯にある。一九八五年に県営ほ場整備事業が計画され、事前発掘調査を実施した。この付近は以前より、「西殿」「大」と記された奈良時代の墨書土器が出土しており、蒲生郡衙の推定地とされていた。調査の結果、奈良時代中期の二間×三間の総柱の掘立柱建物二棟、井戸一基、溝一条を検出した。木簡は、そのうちの井戸より出土した。井戸は四隅横桟止め縦板井戸と称されるもので、鎮めの祭をして埋戻しており、斎串・柳箱・桃の種子・瓜・網籠・土器片が出土している。

8　木簡の釈文・内容

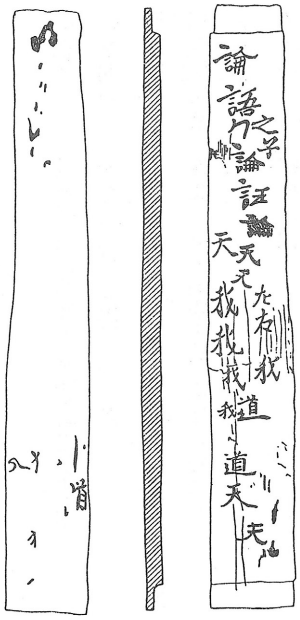
(1)・「　之子　左右　我　□□□『天』
論語□『論□論天』天　道
〔語〕〜　天　我我我我　□道天　□　」

（近江八幡）





・「□□□□□□□□」　『入』　331×48×10　065

習書木簡で、二人の人物が書き記したとみられる。『論語』という書籍名と漢籍の一文にあるかと思える文字を手習いしたとみられる。『論語』は、養老学令5経周易尚書条によると、奈良時代では大学寮での必修書で、官吏登用試験にも用いられており、この習書木簡も、『論語』という文字を手習いしていた下級役人の姿をほうふつさせる。又、蒲生郡衙の存在を示唆する資料とも言えよう。

（仲川　靖）